

やまもり通信 12

vol.64

鳴り響く鐘の音、きらめく街並み。
今年もクリスマスが近づいてきました。



【加子母の風景】加子母では毎月木材市が開かれます。たくさんの優良材が並びます。

彩都やまもり ひとこと日記

遊水窯との「水彩画小(さな)展」開催しました!

10/21(水)～11/2(月)の期間、彩都やまもりギャラリーにて、地域の陶芸グループ「遊水窯」さんによる陶芸作品と彩都在住高藤孝次さんによる水彩画とのコラボ展示を開催しました。延べ150人以上の方々にご来場いただき、多くの方に芸術作品を楽しんでいただくことができました。ご来場いただいた方の中には「購入できますか?」とおっしゃってくださるぐらい心惹かれていらっしゃる方もいらっしゃってよかったです。優しい雰囲気の水彩画と個性あふれるすてきな陶芸作品が見事に調和し、とても雰囲気のある空間となりました。来年以降も別のかたちで展示を企画していますので今回見られなかった方もぜひ楽しみにしていただいね!



ちかでのいいもん 関西のお店 FRANK-Ride and Eat-

関西の皆さん、こんにちは!

地域の皆さんに気さくに楽しんでいただける場、「FRANK-Ride and Eat-」を箕面に作りましてご紹介したいと思います。

きっかけになったのは若い頃に自転車競技(BMX、MTB)で世界のいろいろな国のローカルトレイルやスキー場へ行った時に、どこにでも山の麓には必ず様々なジャンルの人たちが集う素敵なカフェがあったことから、日本でも山の情報交換や趣味の話などをハンバーガーやサンドウィッチを食べながら気楽に出来るステーション的なカフェがあれば楽しいだろうなー、と思ったからです。マウンテンバイク、ロード、シクロクロス、BMX、車、バイクなどジャンルなんて関係ありません。気軽に立ち寄ってもらえるとうれしいです。スタッフ一同お待ちしております。



<MENU> オリジナルパンズ、100%ビーフを使用したハンバーガー。自家製天然酵母カンパニーを使用したサンドイッチ。パンケーキ。コーヒ。ソフトドリンクなど。



FRANK -Ride and Eat-
箕面市如意谷1-11-26 TEL:072-703-0820
定休日:毎週木曜日 駐車場:5台
www.tmg13.com



訃報

関西岐阜県人連合会の土屋嶋会長が急性呼吸不全のため死去されました。葬儀は近親者のみで営まれ、お別れの会を後日開く予定です。



会長職は当面空席とし、徳田昭憲会長代行が実務は執り仕切ります。

土屋様には平成29年度から会長に就任いただき、「岐阜県の更なる発展」と「県人会と連合会の組織拡大」を切に願われ献身的にご尽力いただきました。ここにご生前のご厚情に深く感謝するとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

関西岐阜県人連合会	会長代行	徳田 昭憲
大阪岐阜県人会	会長	寺岡 龍彦
神戸岐阜県人会	会長	高野 文男
京都岐阜県人会	会長	桂川 工



OKBプレミアムワイン

ルビーのような輝きを放つ、上品な甘さが特徴のデザートワイン。ワインが苦手な方にもおすすめしたい特別な一品です。長野県塩尻産ブドウの代表品種コンコードの特徴を生かすため、冷凍濃縮法で醸造しました。OKBストリートにあるOKBショップで販売されています。

【販売：大垣正和サービス株式会社】

OKB 大垣共立銀行



やまもり
yamamori

こちら 彩都やまもりです

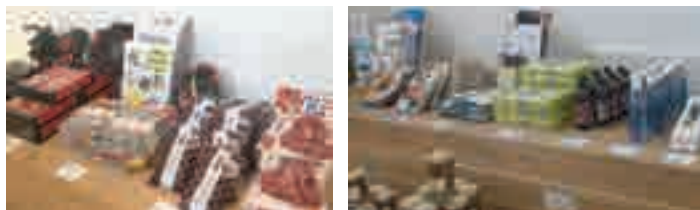
【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26

＜今月のギャラリー案内＞ 彩輝館ギャラリー

「岐阜の味覚楽しむ食欲の秋」を開催しています。

【期間】11月4日(水)～12月14日(月)

朴葉みそやえごまオイル、はちみつ、お米、お茶など、岐阜県各地からの特産品を販売しています。自宅ですぐできるみたらし団子や五平餅もありますので、ぜひこの期間をお見逃しなく！



《彩都やまもり年末年始休業のお知らせ》 ギャラリー&モデルハウス

12月28日(月)～2021年1月5日(火)休業
1月6日(水)から通常営業いたします。

カフェアリス 12月28日(月)～2021年1月12日(火)休業
1月13日(水)から通常営業します。

「岐阜の器と地酒でほろ酔い気分」を開催します。

【期間】12月16日(水)～2021年2月1日(月)

日本有数の地酒の産地、岐阜の地酒が勢ぞろい！岐阜県内の窯元や工房で造られた陶器や枡、ガラス細工の酒器とともに紹介します。

《彩都やまもり今月のイベント》

新型コロナウイルス感染防止策を取りながら下記イベント開催を予定しています。

「やまもり市」

大工さんの手作り屋台が目印。朴葉寿司をはじめ岐阜の特産品や東濃ひのきの木工品などを販売します。「木のふれあい」ワークショップでは、かんな花(かんなくず)で作る「しめ縄作り」又は「Xmasリース作り」を開催します。



【日時】 12月5日(土)、6日(日)
9:30～15:00頃

※1月のやまもり市は開催しません。

※新型コロナウイルスの影響で、中止や内容変更になる場合があります。最新情報は随時彩都やまもりHP (https://yamamori.site) や facebook でご確認ください。



彩都やまもり「年の瀬感謝祭」

門松づくりのワークショップと朴葉寿司などの販売と木工市、ビンゴゲーム大会を行います。

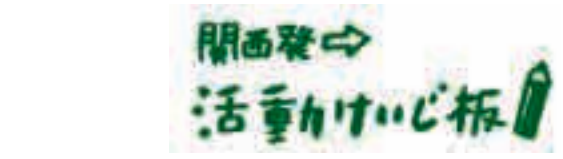
【日時】 12月26日(土)

10:00～16:00頃

※門松づくりは10時、11時半、13時、14時半の4回に分けて開催(要予約)。各回3組まで(1組1個)



本間希代子 絵描きイラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して24年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 http://febako.jp



●関西岐阜県人連合会主催「岐阜ふるさと紀行」に行ってきました！

今年は新型コロナの影響で活動が何かと制限される中、Go To トラベルを利用した今回の「岐阜ふるさと紀行」は、大河ドラマ「麒麟がくる」ゆかりの地を巡る旅。

例年より約1か月遅い10月22日(木)～23日(金)の旅行には16名が参加し、バスの中ではマスクを着用のうえ間隔をあけて座るなど、コロナ対策を万全にして旅行を敢行しました。

まず最初に訪れたのはオープン初日の関ヶ原古戦場記念館で、しかも私たちが1組目の来場者。岐阜県の矢本観光国際局長が出迎えてくださいました。館内は「関ヶ原の戦い」の様子を体感できるシアターの他、この時代に活躍した七将たちの甲冑や手紙などの展示品が並ぶ展示室などがあり、見応え十分。予定した1時間では土産コーナーまで回り切れないほどでした。

その後「ぎふ大河ドラマ館」と併設の「大河ドラマ特別展」を見学し、宿泊地の下呂温泉へ着いたのは18時ごろ。夜の懇親会には今年の4月に新市長になられた山内登様が地酒をもって駆けつけてくださった他、市議員に当選された元連合会の鷲見さんも合流して和気あいあいとした時間を過ごしました。

翌日はあいにくの雨模様でしたが、午前中に訪れた大正村では河越事務局長の計らいでガイドがバスに乗り込んで明智光秀ゆかりの地を案内してください、雨ならではの観光地巡りに参加者の皆さんも大満足でした。最後の観光地、可児市の「花フェスタ記念公園」に着くころにはようやく雨もあがり、満開に咲くバラなど公園内を自由に散策して、帰路につきました。

旅行中、1日目の昼食に立ち寄った大垣市の大垣共立銀行系列のレストランでは大垣共立銀行からワインとソフトドリンク、デザートサービスの他土産を、また大垣市からも飲み物の提供を受けました。皆様、本当にありがとうございました。



懇親会であいさつされる山内下呂市長



関ヶ原古戦場記念館前にて

●新年会と合同記念式典のお知らせ

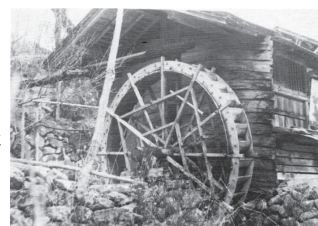
今年、大阪岐阜県人会は創立120周年、連合会は創立10周年を迎えました。これを記念した祝賀会を来年の新年会と併せ下記の日程で開催することが決定いたしました。

【日時】令和3年2月10日(水) 17時～

【場所】太閤園 (大阪市都島区網島町9-10)

●発電所の規模
完成式での報告によると、水路は加子母川左岸保木地内に取水、水路延長317間(約576メートル)、敷巾は5尺(約1メートル)50センチ、深さ3尺(90センチ)、粗石練石は放水路53.5間(約97メートル)。建

●近代文明の象徴「電気」
大正7年、今から102年前。加子母川左岸(現在の加子母南部下水処理施設付近)に村営発電所が完成し、加子母全村へ電気を供給するようになりまし。発電方法は、もちろん水力です。
村の人達は、江戸時代の行灯・松明から、明治時代の石油ランプの時代を経て、明るい電灯の下で一家団欒したり、夜なべや読書ができるようになりました。一般家庭は10燭光の白熱灯1個だけの点灯でした。(燭光は以前使われていた光度の単位。1燭光はろうそく1本の明かり。10燭光はだいたい10ワット電球位です。)しかも夜間だけの送電でしたが、昼間は動力として利用され、その恩恵は大きかったようです。



昔はどこでも見られた動力用の水車小屋

●初めての「電気」の感動
当時、小学生だったおばあちゃんに聞いたことがあります。毎日ランプのほやを掃除しなくて良くなってとても嬉しかったこと。夕暮れになると発電所に近い家から順に、ぼつぼつと明かりがついていくのが見えたこと。たった10ワットの電球の明かり。でも、その光景を想像すると、今では当たり前になった「電気」に対する新鮮な感動を少しだけ感じるような気がします。無くてはならない電気。使い方作り方、私たちは未来にどんな世界を繋げていけるでしょうか。【文責本間】

加子母の人 歴史の道 第58回 角領村営発電所

12回を迎える歴史の道シリーズ、とうとう一番南端の角領地区になりました。今から40年前の昭和55年に発行された「歴史の道」(加子母村教育委員会発行)ずいぶん加子母の暮らしぶりは変化しました。今回は「村営発電所」をご紹介します。

物は木造平屋建て14坪でした。問題の水車は、最大使用水量毎秒40立方尺(約1.1立方メートル)。有効落差25.5尺(約7.7メートル)。横軸復放水リアクションタービン85馬力。毎秒325回転。発電機は、三相交流50KVA3300V。回転数は毎分600。調速機は自動油圧式。機械製造者は京都市の奥村電気商会。総事業費は39060円。
この総事業費は同時の村予算の1年分より多いものでした。

電灯料金は一般電力会社より2/3割は安くし、営業利益は建設資金の償還後は村の一般会計へ繰入れるほどで、電力需要の少なかった当時としては、村内の需要を満たすことができました。しかし、昭和18年電力統合により中部配電に統合され、戦後間もなく施設老朽の為閉鎖し、建物機械は撤去されました。

